

## 科学・政治・宗教をめぐる暴力の系譜

### — 21 世紀的身体（こころ）を展望する —

西洋では近代化と共に社会は機能分化を遂げ、公的領域には政治や科学が配置され、宗教は私的領域に置かれるようになった。政教分離は近代化・世俗化の帰結であるだけでなく、宗教と結びついた過剰な暴力を抑制するための知恵でもあった。しかし、近代化によって暴力全体が抑制されることはなく、むしろ、科学・政治・宗教において、暴力の現象形態は分化していった。

また、社会の機能分化と共に、人間もまた分割的に理解されてきた。しかし、思想・信条（こころ）と身体（社会的次元）を簡単に切り離すことはできず、こころの身体的「可視化」を求める運動が様々な形で起こっている。それは世界各地の宗教復興現象から、同性愛をめぐる議論（アメリカ）やムスリム女性のヴェール論争（ヨーロッパ、トルコなど）に至るまで多岐にわたる。そして、それぞれの議論の場が、時として、暴力的言説、さらには暴力そのものを生み出すことがある。多様な暴力を 21 世紀的身体はどのようにコントロールしていくことができるのか。

本講演では、暴力の系譜をたどりつつ、現代における暴力（紛争・戦争を含む）とどのように向き合っていったらよいかを考える。

【講 師】 小原 克博  
同志社大学神学部教授  
一神教学際研究センター長



●日 時

2010年11月20日（土）午後1時～2時30分

●場 所 同志社大学 新町校地 臨光館205（2階）

●プログラム

司 会：石川 立（同志社大学神学部教授）

【講 演】小原 克博

●入場無料、事前申込不要

●主 催 同志社大学神学部・神学研究科（基督教研究会）

共 催 一神教学際研究センター（C I S M O R）

●お問い合わせ 神学部・神学研究科事務室（075-251-3332）